

令和6年2月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 令和6年2月26日(月) 午後1時30分

場 所 市庁本館3階 議会第2委員会室

出席者	教育長	齋藤	信哉
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久
	教育委員	西山	康巳
	教育委員	小澤	直子

事務局出席職員	教育部長	八木田	満彦
	教育部次長兼教育総務課長	鈴木	伸尚
	教育部次長	熊谷	誠二
	博物館長	小保内	裕之
	学校教育課長	寺井	健司
	教育指導課長	梅内	太郎
	社会教育課長	高橋	宣子
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	こども支援センター所長	田端	修文
	図書館副館長	磯嶋	奈都子

開 会

(齋藤教育長)

定刻となりましたので、令和6年2月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、小澤委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(齋藤教育長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第7号「第3期八戸市教育振興基本計画を定めることについて」事務局からの説明をお願いします。

議案第7号 第3期八戸市教育振興基本計画を定めることについて

(鈴木次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第7号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第7号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに「学校給食基本計画の一部改定について」、事務局からの説明をお願いします。

【学校給食基本計画の一部改定について】

(寺井学校教育課長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(小瀬川委員)

感想を一言申し述べたいと思います。計画の一部改定とは少し違う話です。例えば、13ページの「食物

アレルギーへの対応」に、「保護者や児童生徒自身の判断で…」という文言がありますけれども、給食を提供している対象で考えますと、教職員の方々も含むのではないかと思いました。細かいところなのですが、給食の提供対象として、そういった方々の表示はいらぬものかと、この基本計画を読ませていただいて感じたところがございます。

(寺井学校教育課長)

アレルギー対応食につきましては、毎年度、医師の診断の上で管理指導表を出していただいて、それを基に保護者と学校で管理方法を共有し、アレルギー対応食をスタートする人がいるほか、献立表の配布で対応している人もおり、対応が分かれています。

先ほど、教職員について御指摘をいただいたのですけれども、確かに先生方も一緒に給食を食べておりますが、先生方につきましては今御紹介した対応ではなく、先生方それぞれの体質等に合わせて給食を供給しております。現在、市教育委員会に報告いただいている分には、先生方についてアレルギー対応が必要だという話は聞いておりませんが、引き続き学校と情報共有しながら進めていきたいと思っております。

(齋藤教育長)

私からも少し補足しますと、アレルギー対応食は一つ間違えば命に関わることもあります。したがって、搬送の際も、一般の子どもたちの給食と別に搬送しています。また、一部の先生だけがアレルギー対応食について知っているのではなく、複数の先生で共有することによって、学級担任が何かの事情で休んだ場合でも、他の先生が対応を間違えないようにしております。そのように二重三重に間違いが起きないように対応をしているところでございます。

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(福井委員)

1 ページの一番上に、「昭和 22 年、今から 72 年ほど前…」という言葉がありますが、これは策定した時点の年数でしょうか。他の箇所では何年現在という表記で書かれているのですけれども、計算したら 2019 年になってしまいます。改定版なのでよいだろうと思いつつ、細かいところですがいかがでしょうか。

(寺井学校教育課長)

御指摘ありがとうございます。今回、令和 5 年度 2 月版という形で、新学校給食センター整備に関する部分については、児童生徒数の推移等を今年度版に直しているところであります。しかし、それ以外の部分については、策定時点と同じ状態であり、確かに誤解を招くような表現になっていたもので、検討させていただければと思います。

(福井委員)

また、この計画に記載がなかったもので、現状どうなっているのかお伺いしたいのですけれども、どこかの町でふりかけの持込みのことが話題になっておりましたが、本市の場合はいかがでしょうか。

(寺井学校教育課長)

私もそのニュースを拝見しました。子どもたちから提案があったという話を聞いております。一応、当市については、現時点で学校現場からそういった声は聞こえていないのですが、実際子どもたちが口にする物なので、自宅から持参することについては慎重にならなければならないと思います。持参できる子どもだけではなく、持参したくてもできない子どもなど様々な状況がありますので、そういった声が聞こえてきた時には、対応について検討していきたいと思います。今のところはそういった声はないですし、市としても特に認めるということも考えていない状況です。持込みがなくても食べられる給食は提供しているので大丈夫だと考えております。

(齋藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

[質疑なし]

次に、「令和5年度マイブック推進事業について」事務局からの説明をお願いします。

【令和5年度マイブック推進事業について】

(梅内教育指導課長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

(西山委員)

マイブック推進事業については、これまでも何度か質問や御意見をさせていただきました。10年目を迎えた成果として、各項目の数値が例年を上回っているということで、事務局や各学校の先生方の努力によるものであるかと思えます。特に、資料2ページの上の表にある、クーポンを全く使用しなかった児童が0.5% (49人) となっており、成果が非常に顕著であると思っております。これから先、これをゼロに近づけていくというのは非常に大変なことかと思えますけれども、今後は多くの子どもたちに本を手にしてもらうために、いろいろな工夫をしていただきたいと思います。今年度も、注文袋などの工夫がなされて功を奏していると思っておりますので、今後も引き続き努力して、多くの子どもたちが多くの本を手にするように進めていただきたいと思います。10年目ということで、各方面から様々な御意見があるかと思うのですが、子どもたちだけではなく、保護者や学校にとってもよい事業だと思っておりますので、今後も継続していただきたいと思いますと感じております。

(梅内教育指導課長)

マイブック推進事業は子どもたちにとって非常に大事な事業だと思っておりますので、今の西山委員の言葉を受けて、また来年度以降も頑張っていきたいと思っております。

(齋藤教育長)

私から補足いたします。先日、地方紙の投書欄において、マイブック事業について、クーポン使用率にばかりこだわっているのではないかとという否定的な御意見をいただきました。事務局では、使用率の上下に一喜一憂しているわけではなく、あくまでも子どもたちが、本に親しむ環境づくりや親と一緒に本屋に行って本を買うことの体験などを重視しています。先ほど、西山委員からもありましたとおり、10年という歴史が積み重ねてきたものは大変大きいと感じております。投書欄の中には、1回読めばその辺に本を放り投げて終わりだといった声もありましたけれども、そういうわけではないと思います。学校司書の方々もいろいろな工夫をしながら、子どもたちに継続的に本を読んでもらうための取組をしています。そういったことが、一般の方々にはまだ十分届いていないのだということを、我々は反省する必要があると思っています。大変よい事業なのですけれども、これからもっと理解していただき、応援していただけるような体制を作っていければよいと思います。

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(小瀬川委員)

私からも一言感想を申し述べたいと思います。マイブッククーポンが10年目ということで、十年一昔と言いますが、本当に長い間、教育指導課の先生方をはじめ、学校現場の先生方には、事業を守り改良を重ねながら育ててくださったという感謝の思いでいっぱいです。私自身、本棚にある背表紙を見ながら、子どもがランドセルから「今日これ貰ってきたよ。」と見せてくれた時のことを思い出すことが多々あります。保護者の方々からも温かいお言葉、励ましの言葉などをたくさんアンケートでいただいておりますけれども、例えば、課題にある1枚残ったクーポンの活用方法について、大人だけではなく、実際に書店に行っている子どもたちの声を吸い上げてみるというのも、これからの事業の継続に生きるのではないかと思います。先生方へのアンケート等も実施されているかと思いますけれども、先ほど教育長も申し上げましたとおり、そもそもこの事業の一番大切なところは、本屋に行って、自分のお気に入りの本を子どもたちが自ら選ぶというところだと思います。私自身は、子どもたちが保護者の方と一緒にいったのか、もしかしたらお友達と行っている場合もあるかと思いますし、どういう時間を過ごしたのかなど、そういったところに最近では興味を持つようになりました。去年は、地元の老舗の書店の閉店というニュースもありましたし、書店のない市町村が全国で26%という記事も目にしました。

これから電子図書等も普及していくことも想定されますが、この事業を5年後、10年後に継続できるように、少し遠い未来を見据えて、ますます育てていただきたいと思っています。本当に教育指導課の担当の先生方を初め、学校現場の先生方に改めて感謝を申し上げます、ありがとうございます。

(齋藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(福井委員)

私も非常によい事業だと思っていますし、クーポン使用率にこだわっているわけではないですけれども、毎年結果が出てきている反面、その分先生方は苦勞するのではないかと感じております。また、関係ない

話ですけれども、説明資料にある「主な取組の状況」について、クーポン用の用紙を三菱製紙から無償提供していただいている記載がありますが、今まで感謝状などを出したことはあるのでしょうか。

(梅内教育指導課長)

今のところ感謝状などは出しておりません。ただし、感謝状を出したほうが確かによいという考えもあると思いますので、その点につきましては今後検討してまいりたいと思います。

(福井委員)

企業も地域のイメージアップのために提供しているわけではないとは思いますが、賞状等があればよいのではないかと思います。10年間無償提供をしているかどうかかわからないですが、ちょうど事業開始から10年目となりますので、何かの機会にお礼の気持ちを示してもよいのではないかと考えております。

(齋藤教育長)

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

(小澤委員)

マイブッククーポンの配布につきましては、八戸市は10年も前からすばらしい事業に取り組んでいると感じております。他県の各市町村でも図書券を配布しているようですが、その目的としては、物価高騰による子育て支援や学びのためにということです。一方、八戸市は、教育の観点から、子どもたちが本に親しむという最も大切な狙いを持って、10年前から行っていることですので、八戸市として全国に誇るべき事業なのではないかと思っています。そして先ほど、教育長から、ブッククーポンの使用率にばかりこだわっているのではないかという御指摘もあったというお話もありました。資料の3ページ目にあるように、実はブッククーポンにはシリアルナンバーが付いていて、学校名や児童名が全て控えてあったということをおも初めて知りました。以前、我が子たちがいただいた時には一切気付かなかったのですが、今改めて聞きまして、10年の間に全ての子どもたちに同じ学びができるように配慮されているところもすばらしいと思っています。そういった教育の観点から事業を実施しているということが、保護者や市民に伝わるような伝え方があればよいと思いました。

(齋藤教育長)

ブッククーポンにかかわらず、八戸市の特徴は、「本のまち八戸」に全市民を挙げて取り組んでいるということです。先ほどブッククーポンの話をしましたが、その他にも、企業から各学校や所管部署に寄附をいただくなど、子どもたちあるいは市民のために本を活用してほしいという声が上がっています。これからもそういった取組をしっかりと大事にしながら、広く周知をして理解していただくということも、継続していかなければならないと思っています。

そのほか、委員の皆さんから質問等ありますでしょうか。

[質疑なし]

(齋藤教育長)

次に、「令和5年度学校教育実践功労表彰について」事務局からの説明をお願いします。

【令和5年度学校教育実践功労表彰について】

(河村総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

次に、「八戸市図書館運営方針の改定と事業計画の策定について」事務局からの説明をお願いします。

【八戸市図書館運営方針の改定と事業計画の策定について】

(磯嶋図書館副館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

次に「その他」にまいります。

そのほか委員の皆様方から何かございますか。

[なし]

閉 会

これをもって令和6年2月教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時22分閉会)